

むら
有限会社はたやま夢楽

～限界集落でも、土佐ジローで企業経営を！～



六次産業化により雇用を創出



独自の飼育方法により高品質な鶏肉を生産

経緯

- 人口が急激に減り、限界集落となった畑山で暮らすため、「仕事がないなら創ればよい」と大工から転身し地鶏「土佐ジロー」の養鶏に着手。新聞記者をやめ畑山に移住した妻とともに経営を拡大。
- 採卵だけでなく、独自の生産方法により鶏肉の生産を開始。食鳥処理や宿の経営で雇用を創出。

取組内容

- 高知県の地鶏「土佐ジロー」の生産拡大により雇用を促進。限られた生産量のため売上・利益率を伸ばす販路開拓に努める。
- 「土佐ジロー」を提供する宿・食堂「はたやま憩の家」を経営。顧客満足度の向上と経営改善のため、コース料理や宿泊客の予約営業に注力している。

活動の効果

- 地鶏「土佐ジロー」の生産を軸に複業経営することで雇用を創出し、県外からの移住者を迎えることができた。
- 廃止が検討されていた地域唯一の交流拠点施設の温泉宿の指定管理者となり、料理内容の見直し、営業時間の短縮などで、指定管理料なしで経営を続けている。全体の利用者数は減少したものの、川遊びや星空観察など自然環境をゆったりと楽しむ時間を生み、リピーターの創出にも繋がった。

応募団体からのアピール・メッセージ

土佐ジローの生産拡大による経営の安定化を図り、畑山の自然環境を生かした交流サービスを創出したい。また、川や山などにある地域資源の掘り起こしにも積極的に取り組んでいきたい。